

4 どんなことを調査し 何がわかるのですか？

調査票は2種類あります



この調査では、調査票Aと調査票Bの2種類の調査票を使用します。

調査票Aと調査票Bは調査区ごとに配り分けます。

調査票Aは、世帯や世帯員について、過去1年間のさまざまな活動状況や特定の2日間の生活時間を調査します。

調査票Bは、世帯や世帯員について、特定の2日間の生活時間を、日誌のように自由に記入する方法により調査します。

調査票A

すべての世帯員（10歳以上）が記入する項目

- 1 氏名・男女の別
- 2 世帯主との続き柄
- 3 出生の年月
- 4 配偶者の有無
- 5 教育
- 6 ふだん自分の用途で携帯電話やパソコンなどを使用していますか
- 7 ふだん家族の介護をしていますか
- 8 あなたの子どもはどこに住んでいますか※
- 9 ふだん仕事をしていますか
- 10 仕事をしたいと思っていますか※
- 11 勤めか自営かの別
- 12 本人の仕事の種類
- 13 勤め先・業主などの企業全体の従業員数※
- 14 ふだんの1週間の就業時間
- 15 ふだんの片道の通勤時間※
- 16 週休制度※
- 17 連続した休暇の取得の有無・時期※

1年間の活動についての項目

- 18 インターネットの利用について※
- 19 学習・研究について※
- 20 ボランティア活動について※
- 21 スポーツについて※
- 22 趣味・娯楽について※
- 23 旅行・行楽について※

生活時間について

- 24 生活時間について

世帯主のみ記入する項目

- 25 住居の種類
- 26 居住室数
- 27 自家用車の有無
- 28 世帯の年間収入（税込み）
- 29 ふだん世帯以外の人から介護の手助けを受けていますか
- 30 不在者の有無
- 31～33 10歳未満の人について

※は「調査票A」のみの項目

調査票B

すべての世帯員（10歳以上）が記入する項目

- 1 氏名・男女の別
- 2 世帯主との続き柄
- 3 出生の年月
- 4 配偶者の有無
- 5 教育
- 6 ふだん自分の用途で携帯電話やパソコンなどを使用していますか
- 7 ふだん家族の介護をしていますか
- 8 ふだん仕事をしていますか
- 9 勤めか自営かの別
- 10 本人の仕事の種類
- 11 ふだんの1週間の就業時間

生活時間について

- 12 生活時間について

世帯主のみ記入する項目

- 13 住居の種類
- 14 居住室数
- 15 自家用車の有無
- 16 世帯の年間収入（税込み）
- 17 ふだん世帯以外の人から介護の手助けを受けていますか
- 18 不在者の有無
- 19～21 10歳未満の人について



すべての世帯員(10歳以上)が記入する項目

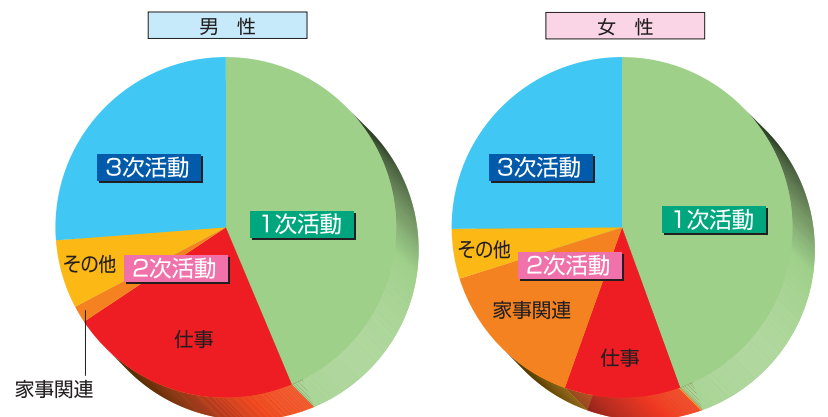


氏名・男女の別

氏名は、各調査事項がだれについて記入されたものかを確認し、調査もれや重複して調査することを防ぐために必要です。また、記入もれなどがあった場合に、照会するためにも必要なものです。

男女の別は、人に関する最も基本的な項目です。男性と女性では仕事や家事などといった生活時間の配分や行動に大きな違いがみられます。男女別の統計は男女共同参画社会の形成に向けた諸施策になくてはならないものです。

●1日の生活時間配分(10歳以上、週全体)―平成13年



(注) 1次活動…睡眠や食事など人間が生きていくために生理的に必要な活動
 2次活動…仕事や家事など社会生活を営む上で義務的要素を持つ活動
 家事関連:「家事」、「介護・看護」、「育児」、「買い物」の合計
 その他:「通勤・通学」、「学業」の合計
 3次活動…学習・研究、趣味・娯楽など自由に行う活動

男女別に1日の生活時間を見ると、1次、2次、3次活動の割合には、さほどの違いは見られませんが、2次活動の内訳を見ると、男性は仕事時間が、女性は家事関連時間が大きなウエイトを占めています。

出生の年月

この項目を基にして年齢を計算します。世代の違いにより、学業、仕事、育児などといった生活時間の配分や行動に違いがみられ、年齢を把握することにより、これらの状況が明らかになります。

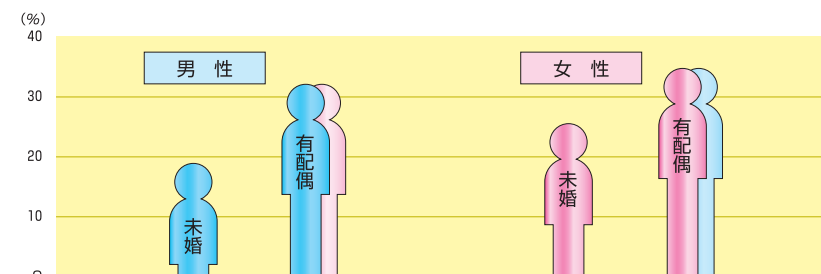
世帯主との続き柄

世帯の構成をみるために必要です。男女の別、年齢などと組み合わせて、夫婦のみの世帯、高齢者の世帯など世帯の類型を把握することができ、これらの類型別に、生活時間の配分や個人の生活行動を明らかにすることができます。

配偶者の有無

配偶者の有無により、地域とのつながりや交際、仕事、家事など、生活行動に大きな違いがみられます。わたしたちの生活行動を明らかにするためには、なくてはならない項目です。

●配偶者の有無別にみた ボランティア活動をした人の割合(15歳以上)―平成13年



「ボランティア活動」の行動者率は有配偶者が未婚者を大きく上回っています。

教 育

在学中の人はその学校、卒業した人は最終卒業学校を調べるものです。これにより、小学校、中学校、高校など、在学する学校の種類別に、一日の生活時間の配分や自由時間の活用のしかたなどが明らかになります。また、学校教育以外の学習活動と組み合わせて集計することにより、学校教育では補えない部分の学習・研究分野、すなわち社会教育や生涯学習の振興などの行政施策に活用することができます。



ふだん自分の用途で携帯電話やパソコンなどを使用していますか

この項目は、携帯電話やパソコンなどの情報通信に関する機器が、わたしたちの生活行動や生活の時間配分に与える影響を把握します。これにより生活者の側からみたインターネットの利用状況が明らかになり、情報通信振興関連施策の基礎資料として活用されます。





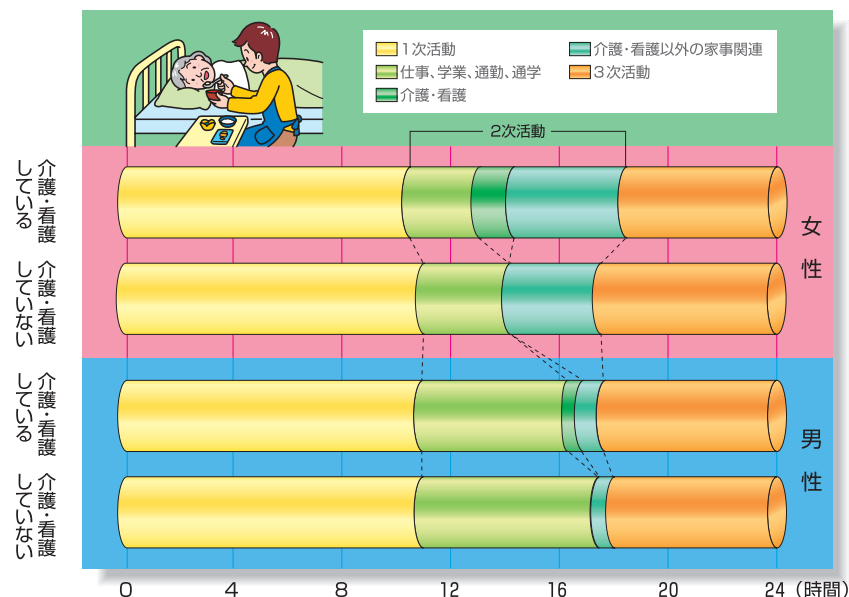
60歳以上の人が記入する項目

ふだん家族の介護をしていますか

日常生活での入浴・着がえ・トイレ・移動・食事などの際に、何らかの手助けをする「介護」の状況を明らかにします。

これにより、家族の介護にかかる時間が明らかになり、高齢者保健福祉施策など、重要な政策課題となっている介護問題への対応に必要な基礎資料を得ることができます。

●介護・看護の有無別にみた 生活時間（15歳以上、週全体）—平成13年



(注) 1次活動…睡眠や食事など人間が生きていくために必要な活動
2次活動…社会生活を営む上で、義務的要素を持つ活動
「介護・看護以外の家事関連」:「家事」、「育児」、「買い物」の合計
3次活動…学習・研究、趣味・娯楽など自由に行う活動

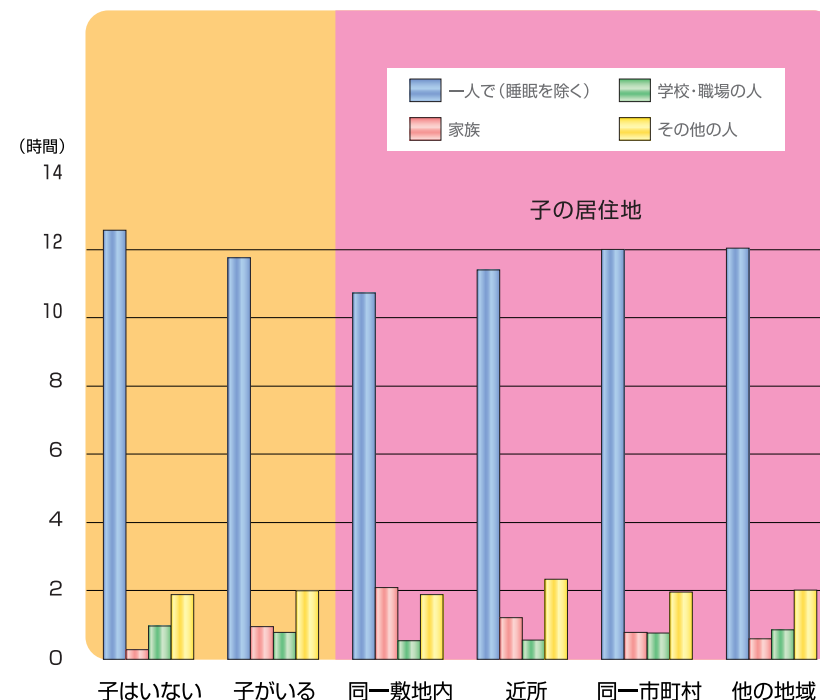
ふだん介護・看護をしている人は、していない人に比べ家事関連時間が長く、特に女性に顕著です。

あなたの子はどこに住んでいますか

この項目は、60歳以上の人を対象にします。

高齢者の生活行動は、子供が同じ敷地内や近くに住んでいるかそうでないかによって違いがあり、このような状況を把握するために必要となる項目です。

●一人暮らしの人の「一緒にいた人」とその時間 (60歳以上、週全体)—平成13年



60歳以上の一人暮らしの人について、1日のうち「一緒にいた人」別の時間をみると、子供がいない人よりも子供がいる人の方が一人での時間は短く、また子供が近くに住んでいる人ほど一人での時間は短くなっています。

15歳以上の人が記入する項目



ふだん仕事をしていますか

働いているか働いていないか、また、働き方の違いなどは、生活時間や生活行動に大きく影響するため、これらの状況を明らかにする必要があります。

就業状態別に一日の生活時間の配分や活動状況を明らかにすることにより仕事と家庭の両立の実態を分析するなど、行政施策の基礎資料として活用します。

仕事をしたいと思っていますか

仕事をしていない人について、将来的なことではなく、現在仕事をしたいと思っているかどうかを調査し、近年増加している若年無業者等の実態の把握に資するため、これらの状況を明らかにする必要があります。

勤めか自営かの別

働いている人については、自分で事業を営んでいるのか、雇われているかなどによって、生活時間の配分、特に自由時間の量やその活用の仕方に違いが出てきます。このため、ふだん仕事をしているかどうかだけではなく、勤めか自営かの別を把握する必要があります。

雇用形態別に一日の生活時間の配分や活動状況を明らかにすることにより、仕事と家庭の両立の実態を分析するなど、行政施策の基礎資料として活用します。

本人の仕事の種類

働いている人が、どのような仕事に携わっているかを把握し、職業別に生活時間の配分や活動状況の実態を明らかにすることにより、わたしたちの生活の質の向上を図る行政施策の基礎資料として活用されます。

仕事の内容を詳しく記入していただくことにしているのは、この「仕事の種類」の記入内容を基に、「日本標準職業分類」という分類基準に照らして職業を間違いなく正確に分類し、これにより上に述べた実態を正確に把握することとしているためです。

勤め先・業主などの企業全体の従業者数

この項目は、「勤めか自営かの別」で把握するパート、アルバイトといった形態などとも組み合わせて、企業全体の規模など勤め先の状況による生活時間の違いを把握する上で、必要な項目です。



ふだんの1週間の就業時間

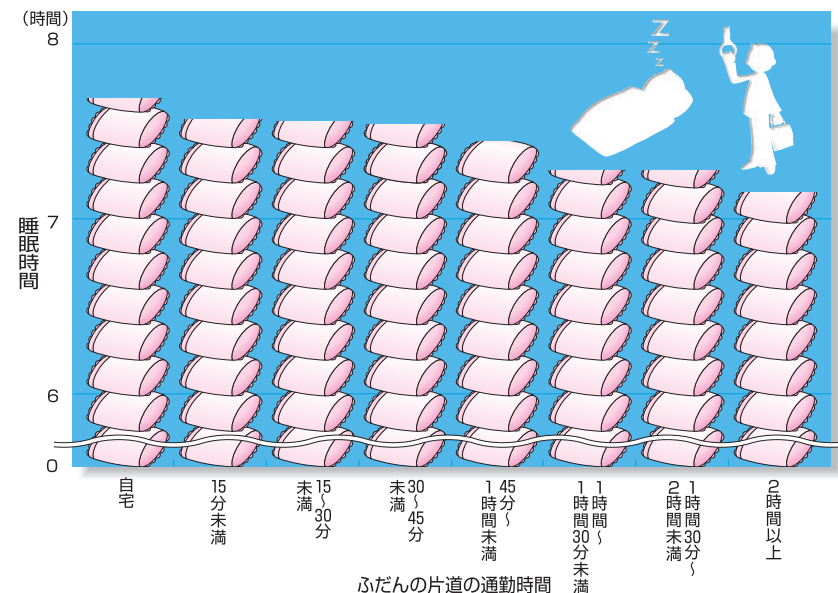
ふだんの片道の通勤時間

生活時間の中で働いている時間や通勤にかかる時間などがどれくらいあるかということは、生活行動に大きな関係があります。

就業や通勤時間の別に生活時間の配分や活動状況を集計することにより、労働時間や通勤時間の増減とわたしたちの生活との関係などが明らかになります。

さらに、企業における「フレックスタイム制」や「時差通勤」などの導入を促進する通勤関連施策を検討する基礎資料を提供します。

●片道の通勤時間別にみた 平日1日の睡眠時間（有業者）—平成13年

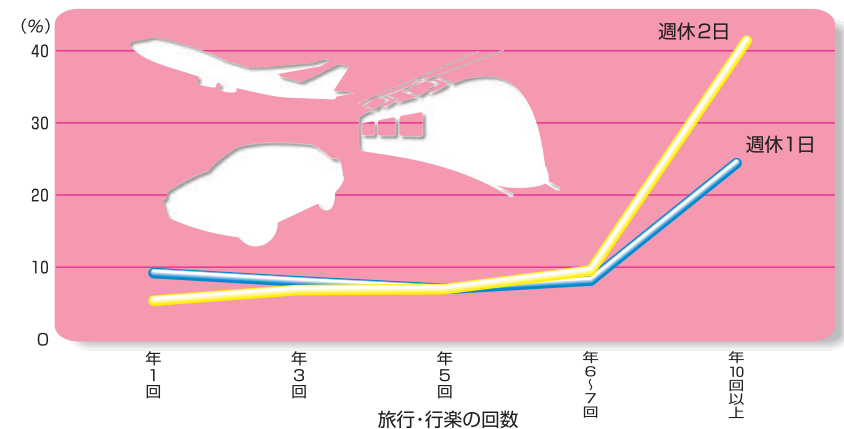


通勤時間が短いほど睡眠時間は長く、通勤時間が長いほど睡眠時間は短くなっています。

週休制度

週休2日制の普及により、わたしたちが自由に使える休日が増えています。この項目により、休日の増加が生活行動にどのような影響を与えているか、といった状況を把握することができます。

●週休制度別にみた 旅行・行楽に行った人の割合（有業者）—平成13年



週休2日制の人は週休1日制の人より、旅行に行く回数が多い人が多くなっています。

連続した休暇の取得の有無・時期

連続した「休暇」とは、年次有給休暇、夏季休暇、リフレッシュ休暇、ボランティア休暇、教育訓練休暇などをいいます。

この項目を調査することにより、1週間以上の連続した休暇を取得した場合、生活行動にどのような影響を与えているかを把握することができます。このことにより、まとまった休暇の実現は、健康面や家族との交流など生活面での個人に与える影響などが明らかになります。

1年間の活動についての項目



インターネットの利用について

この項目は、インターネットが生活の中でどのように利用されているかを調べます。さらに、それを男女、年齢の別など個人の属性別に把握することにより、今後、わたしたちの生活の中にインターネットがどのような広がりを見せるのか展望することができ、情報化指標の一つとして情報通信振興関連施策を検討する基礎資料を提供しています。

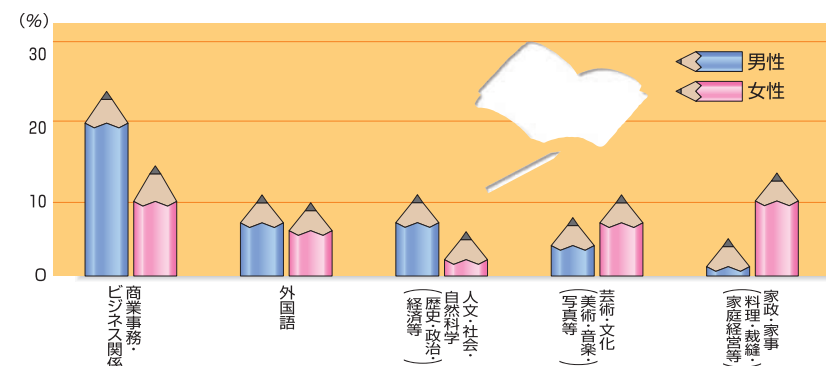


学習・研究について

近年の雇用情勢の変化や価値観の多様化などにより、自己の職能技術の向上や生きがいのための学習活動が盛んになっていると言われています。

この項目は、このような学習・研究の目的や内容を把握するもので生涯学習の振興、社会教育や職業訓練などの文教施策に利用されます。

●学習・研究をした人の割合（10歳以上）—平成13年



男女ともに「商業実務・ビジネス」を学習・研究している人の割合が高くなっています。次いで高いのは、男性は、「外国語」及び「人文・社会・自然科学」で、女性は、「家政・家事」となっています。

ボランティア活動について

ボランティア活動は、地域社会の活性化等に寄与するものとして、わたしたちの生活における重要性がますます高まっています。

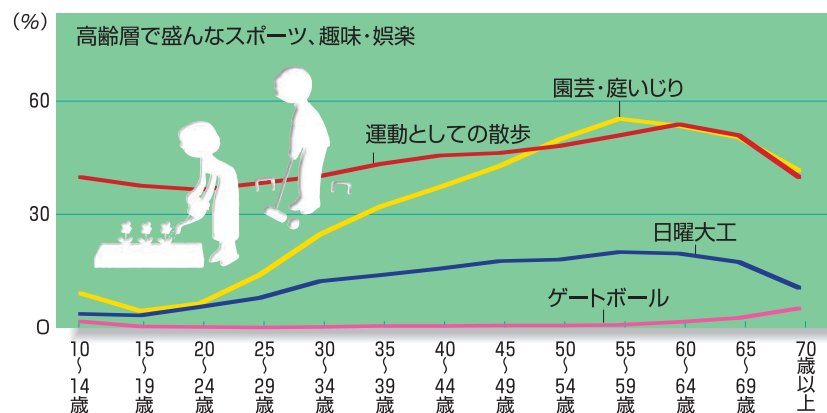
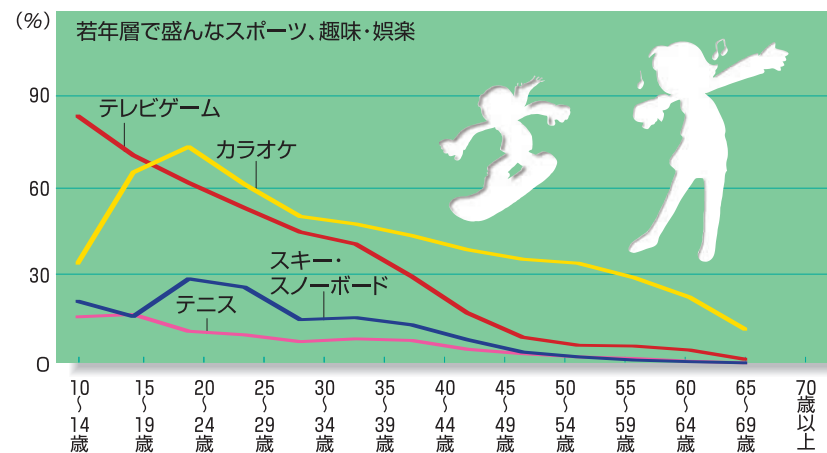
この項目は、ボランティア活動について、その内容や頻度、参加の形態などを把握するもので、各種ボランティア活動に関する実態についての情報を提供し、関係する行政施策の基礎資料となります。

スポーツについて

趣味・娯楽について

この項目は、スポーツ、趣味・娯楽について、その内容や頻度を把握するもので、男女、年齢の別など個人の属性別に集計することにより、スポーツや文化活動の振興といった文教施策などに活用されます。

●年齢別にみた スポーツ、趣味・娯楽をした人の割合（10歳以上）—平成13年

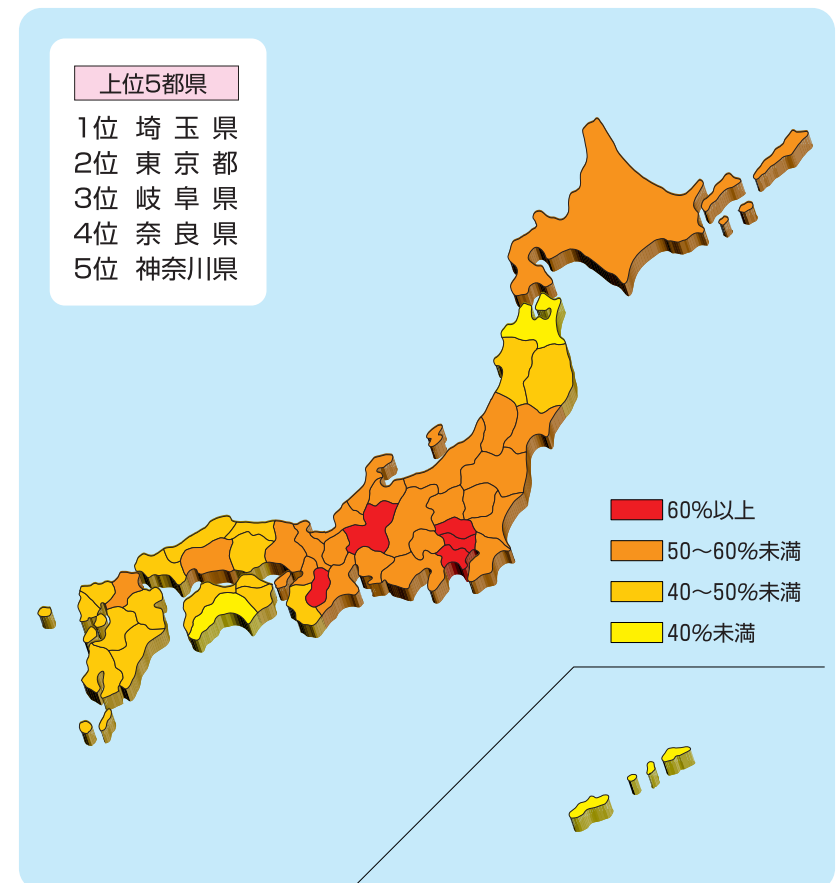


旅行・行楽について

旅行・行楽は、自由時間における特徴的な行動の一つです。

この項目は、このような旅行・行楽について、その内容や頻度、一緒に行った人などを把握するもので、観光行政の基礎資料として活用されます。

●都道府県別にみた 国内観光旅行に行った人の割合（10歳以上）—平成13年



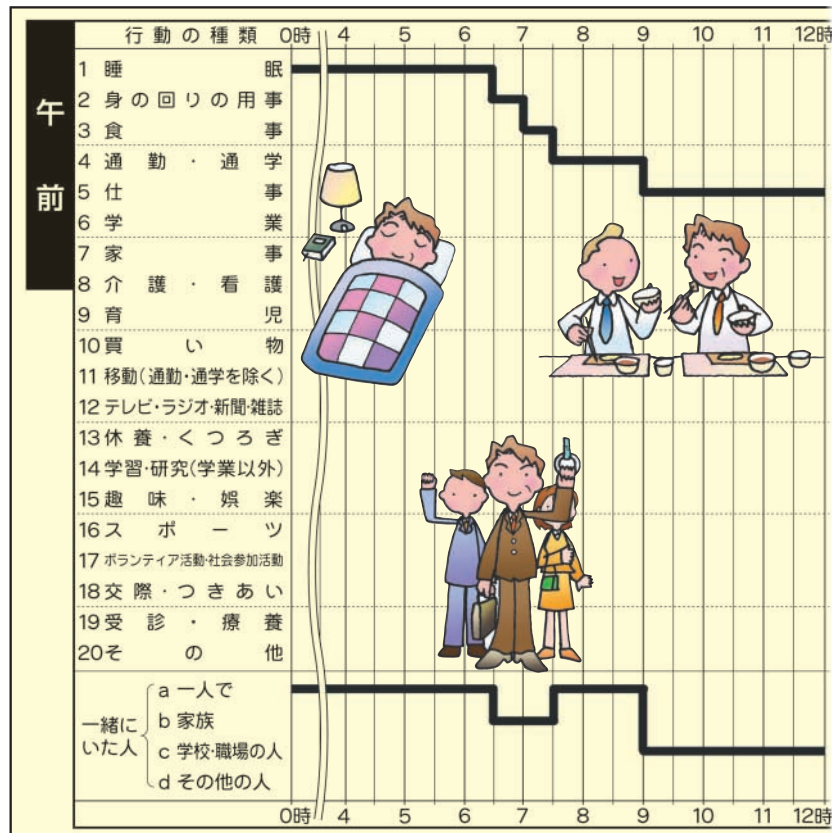
生活時間について



この項目は、わたしたちの生活時間の配分を把握するもので、社会生活基本調査の主要な調査項目の一つとなるものです。

連続する2日間にわたって、1日24時間をどのような時間配分で生活しているかについて、15分単位で記入します。

(1) この日は 次のいずれの日でしたか (当てはまるものをすべてに記入してください)							(2) この日の天気は どうでしたか		
旅行 (1泊2日以上)	行楽 (半日以上の日帰り)	行事または冠婚葬祭 (半日以上の参加)	出張・ 研修など	療養	休みの日 (休暇・休日など)	その他	1日中雨が 降っていた	一時雨が 降っていた	雨は降らな かった
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐



調査票A

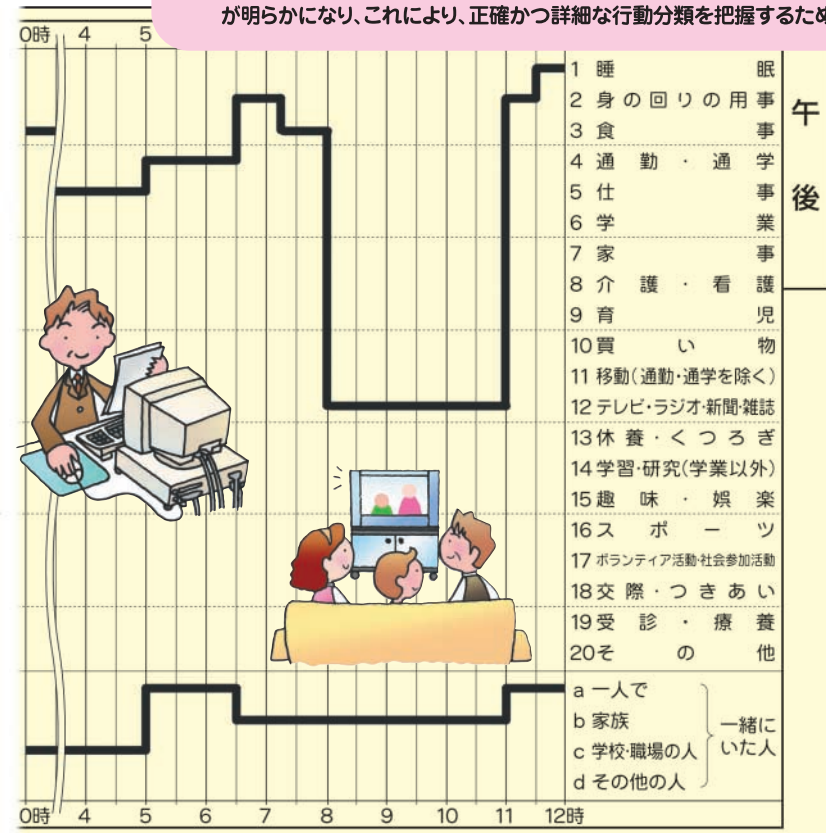
生活行動の種類をあらかじめ20に分類した調査票に、記入者が、時間ごとにあてはまる「行動の種類」と「一緒にいた人」に線を引きます。

「一緒にいた人」は、このような生活行動の内容を正しく把握するとともに、家族とのふれあい、社会とのつながりなどを把握するための調査項目です。

(Q&A)

Q: 15分単位で書くのはなぜですか？

A: 社会生活を営む上で、人間は、特に活発に活動を行う時間帯においては、短時間でいくつもの行動をこなすため、15分単位で記入していただくことにより、行動が明らかになり、これにより、正確かつ詳細な行動分類を把握するためです。

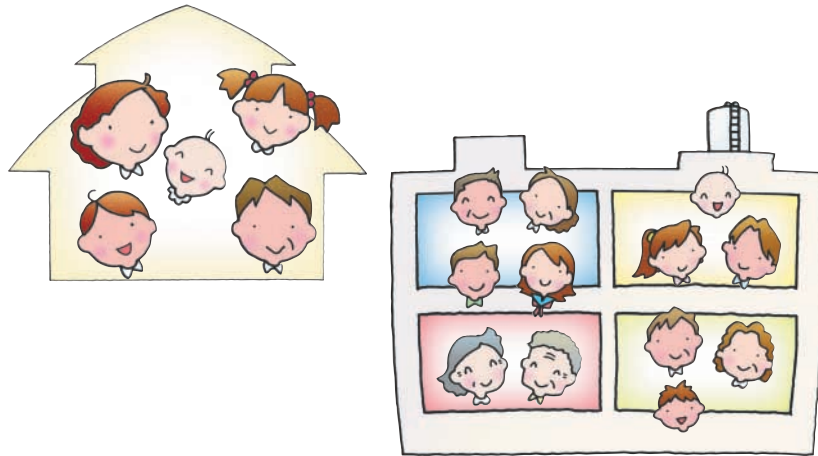


世帯主のみ記入する項目



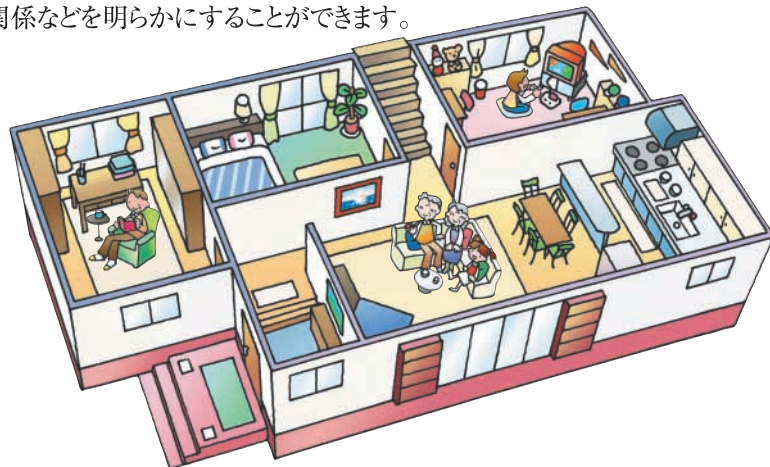
住居の種類

住居は、生活の本拠となる重要な場所です。この項目は、住居が持ち家か借家かなどによる生活様式や生活行動の違いを明らかにするものです。



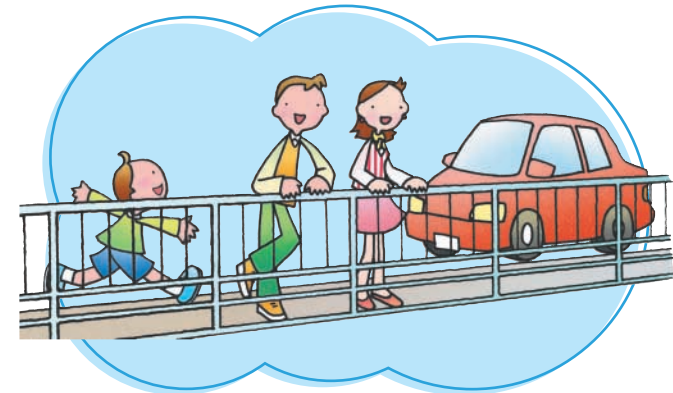
居住室数

居住室数は、生活行動を把握する上で重要な項目です。これにより居住室数と家事に費やす時間の関係や、居住室数と家族と一緒に過ごす時間の関係などを明らかにすることができます。



自家用車の有無

自家用車の有無は、身近な交通手段として生活行動に大きく影響するため、生活行動をとらえる上で欠かせない項目です。



世帯の年間収入（税込み）

わたしたちの行動は、時間と空間（場所）に加えて、費用により大きく左右されるため、費用面からみた生活行動の違いを把握することにより、各種サービスの充実に反映させるなどわたしたちの生活の利便性の向上を図る行政施策の基礎資料として活用します。

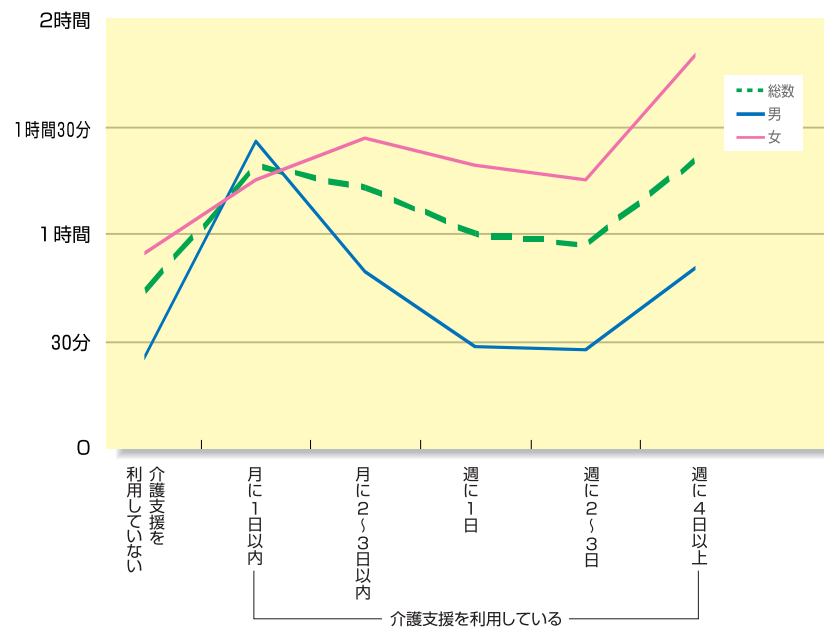


ふだん世帯以外の人から介護の手助けを受けていますか

この項目は、介護を必要とする人がいる世帯において、別居の親族からの手助けや介護サービスなどを受けているかについて把握するものです。

これにより、世帯員の生活行動や生活時間にどのような影響があるのかを明らかにすることができ、今後の介護に関する支援などの施策に欠かせない基礎資料となります。

●介護支援の利用の状況別介護・看護の総平均時間 (ふだん家族を介護している人、週全体)

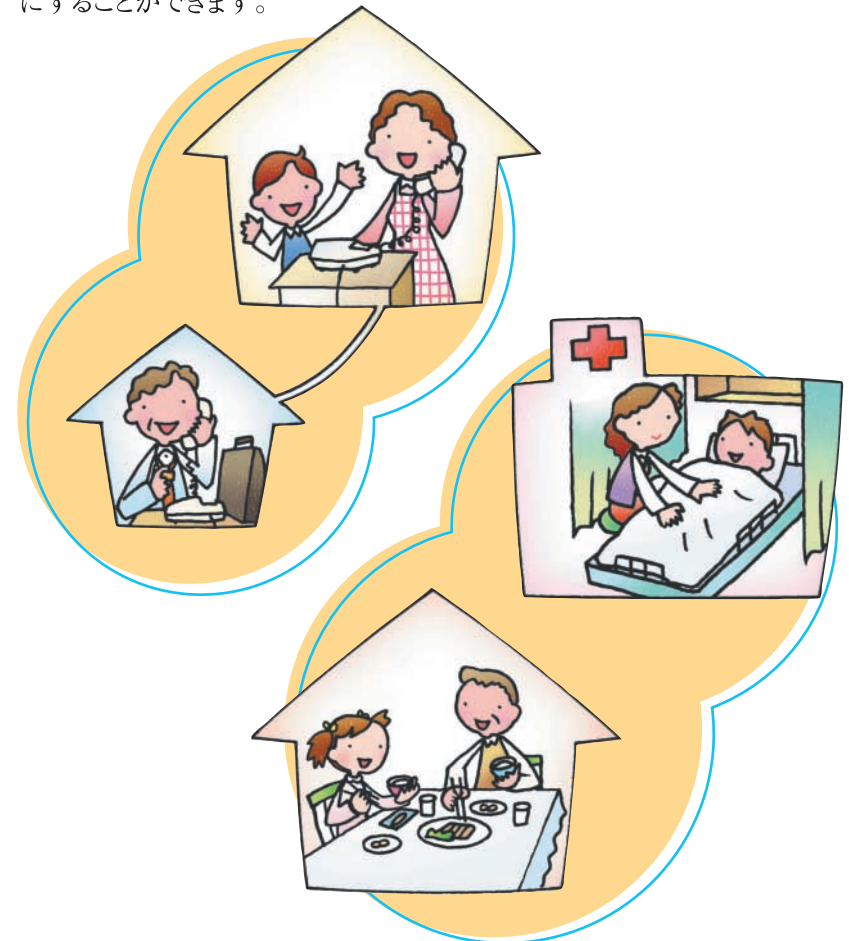


介護支援の回数が週に2～3日までの利用は多くなるにつれ、ふだん介護・看護の時間は短くなっています。しかし、週4日以上利用している人の介護・看護の時間は長くなっており、要介護度合いの高い人を介護しているためと考えられます。

不在者の有無

この項目は、世帯に不在者がいるかどうかを把握することにより、その留守家族の世帯員の生活行動を明らかにすることをねらいとしています。

例えば、入院している家族がいる場合や、親が単身赴任などで長期間不在の場合、家族の生活行動にどのような影響があるかについて明らかにすることができます。



10歳未満の人について

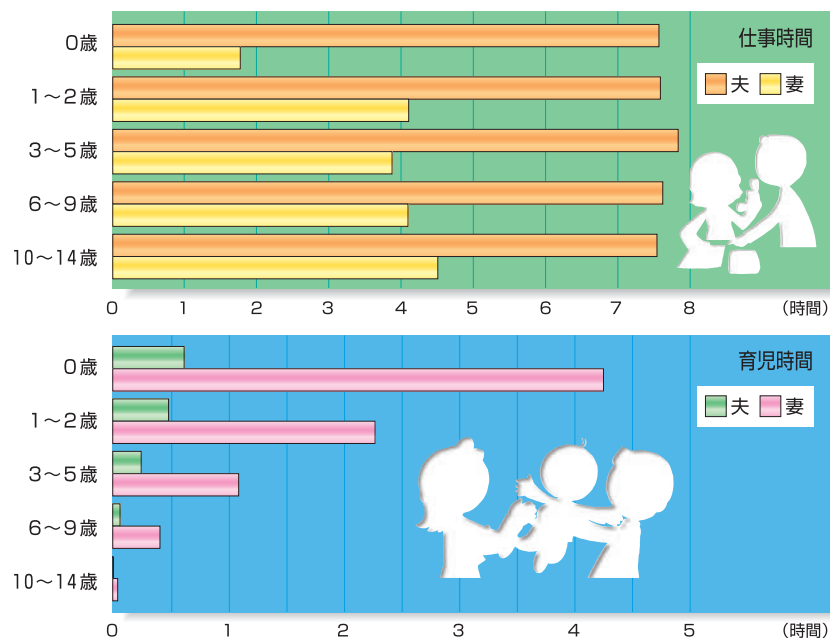


世帯主との続柄

年 齢

世帯に10歳未満の子供がいるかいないか、子供がいる場合には、その子供の年齢が何歳かによって、家族の生活行動には大きな違いが生じます。これらのことを把握することにより、家族の生活行動を明らかにし、子供がいるかいないかにより育児など家事関連時間にかかる時間の違いが分かり、少子化対策の基礎資料となります。

●末子の年齢別にみた 夫、妻の1日の仕事、育児時間（有業者、週全体）—平成13年



育児時間は末子が小さいほど、夫、妻ともに長くなっていますが、妻の育児時間は夫の育児時間の4～7倍となっています。夫の仕事時間は、末子の年齢にはほとんど関係ありませんが、妻の仕事時間は末子の年齢に大きく影響されています。

在学・在園の状況

この項目は、仕事や育児の状況と組み合わせることにより、延長保育や学童保育などの利用と家族の生活行動や生活時間との関係について把握するもので、雇用や子育て支援などにおける課題に対応するために必要となります。

